

里海学びの講座 開催しました！

全3回



■ 第1回

平成29年11月17日(金) 18:30~20:30

■ 会場 香川大学研究交流棟6F第1講義室

■ 講師 香川県水産試験場 場長 川西 敦 氏



11月17日に里海学びの講座第1回を開催しました。最初に香川県環境管理課職員による「里海づくり概論」についてお話がありました。

続いて、香川県水産試験場場長 川西 敦 氏から「香川の魚」というテーマで香川県の漁業生産量の推移などについて経年データを交えた解説があった後、瀬戸内海で捕れるブリ類・ノリ・カタクチイワシ・サワラ・マダイ・フグ類・キジハタ・アイゴなど漁業の歴史と、漁獲量や市場単価の推移について、統計調査に基づき詳しい説明がありました。

受講者からの質問では、「潮干狩りに行くと昔に比べてハマグリやアサリが取れなくなつた。理由は何か。」「海苔の色と水温の関係性は。」等、積極的に質問が上がりました。



■ 第2回

平成29年12月1日(金) 18:30~20:30

■ 会場 香川大学幸町キャンパス北6号館611教室

■ 講師 香川県瀬戸内海歴史民俗資料館 館長 田井 静明 氏



12月1日に、里海学びの講座第2回を開催しました。香川県瀬戸内海歴史民俗資料館館長 田井 静明氏 から、「海との暮らし」というテーマで講義が行われました。

最初に、「海から寄りつくものへの関心」をテーマに昔の人々は漂流物をどのようにして活用していたのかについて、次に、「瀬戸内に寄り着いた神仏など」をテーマに、漂着木材、漂着生物と信仰(霊木、空ろ船・うつぼ船など)について説明がありました。昔の人々が漂着物を信仰の対象としていたという内容は、今とは様子が異なり珍しいお話のようで、皆さん興味深く聞き入っていました。

さらに、「里海のくらしー漁業を中心としてー」をテーマに、香川県瀬戸内海歴史民俗資料館の展示物のスライドを見ながら、伝統的な漁で使用された漁具や手法、昔、瀬戸内海でクジラを捕っていたお話や、ため池などの水利用について説明がありました。瀬戸内海にクジラがいたという話を初めて聞いたという方も多い様子でした。続いて、「海・島の祭り行事、民俗文化」をテーマに、地域別の海にまつわる伝統祭事の解説のあと、最後にまとめとして、「里海瀬戸内海国立公園の成立と保全・活用」についてお話がありました。

受講者の皆さんは、昔の人々と海の暮らしに思いを馳せながら、メモを取りながら熱心に聞き入っていました。



■ 第3回

平成29年12月15日(金) 18:30~20:30

■ 会場 香川大学幸町キャンパス北5号館524教室

■ 講師 香川大学地域連携戦略室 特命講師 山田香織 氏



12月15日に、里海学びの講座第3回を開催しました。

香川大学地域連携戦略室特命講師 山田 香織氏より、「魚食文化を探る」というテーマで講義が行われました。

まず、日本における魚食文化の歴史から始まり、日本全体から香川にクローズアップした郷土料理についてお話がありました。次に、香川における魚食として、伊吹島のイリコや、「いただきさん」を題材に魚食文化のお話がありました。さらに、「魚食文化」を通じて生活様式がどのようにして変化していったのか説明があった後、将来に向けて日本の魚食文化を守るために私たちが出来る事は何かあるのかを考えていかねばならないとのお話に、皆さん真剣に聞き入っていました。

受講者からは、「魚、文化、民族、食文化どれも身近でとつきやすく分かりやすい講座でした。」「とても興味深いので、追々自身でも調べたい。」等の声が上がりました。